

R5 年度 自己評価結果公表

本年の教育・保育目標及び方針

《教育・保育目標》

- ☆ 安定した（丈夫な）心と身体を育み、生活（生きる）する力をつける
 - ・明るい子（誰とでも仲良くでき、感性や創造力が豊かな子）
 - ・強い子（健康で、優しく思いやりがあり、最後まで頑張れる子）
 - ・よく遊ぶ子（自然と親しみ、遊びや運動で身体を鍛え、ルールや約束を守れる子）
 - ・あいさつのできる子（心の通い合うあいさつができ、相手の気持ちに寄り添える子）

《教育・保育方針》

- ☆ 子どもの生活や育ちの繋がりを配慮した保育・遊びの中から、自分らしく生きる力を育む
- ☆ 子どもの主体性を大切にし、自主性や創造力をつけると共に、自ら様々なことを乗り越えられる力をつける
- ☆ 保育・食育活動を通じて豊かな感性を育み、心も身体も健やかに、のびのびと丈夫で元気な子を育てる

本年度の重点目標

- ・年齢、個別に応じ教育・保育・食育を行い、心身共に健やかに園児が成長できるようにする
- ・職員間の連携をしっかりと行い、教育・保育（食育）の充実をはかる
- ・担当制やグループ保育、個別対応を行い一人ひとりに寄り添った保育を行う
- ・リーダー職により職務への自覚と責任を持てるようにする

評価項目別の達成および課題状況

項目	評価・課題
本園の保育・教育理念・目標・方針の認識度	目標・方針の見直しを行ったが認識はおおむねされている。昨年度とあまり変わらないので、来年度は保育・教育理念の認識度をあげて、保育の資質の向上を更にはかりたい。
クラス（給食室）間の連携	クラス（給食室）間の連携はおおむね出来ている。まだ報連相の不十分な職員もいるので、全職員で周知できるようにしていく。
フロア・園全体での連携	職種間連携は安定してきている。フロアリーダーを中心とした連携ができてきているように思われる。フロア間の連携の更なる向上が必要である。
教育・保育（食育）内容	一人ひとりに寄り添った対応ができてきている。適切な保育（食育）を心掛け、職員の個別の資質の向上が必要である。
保育（食育）知識・技術の向上	外部研修、内部研修、自主研修に参加することにより、各職員の資質向上に概ねつながった。ZOOM等を利用した研修参加により非常勤職員も研修ができてきている。研修を通して全体の保育の質の向上をはかっていく。
子育て支援（保護者・地域）	今年度より、保護者との連絡をコドモンにて行っている。保護者への連絡はスムーズにできているが、必要に応じて直接話をする事で補足ができてきている。親子ひろばも多くの方に参加いただき、地域支援もできている。
小学校・地域との連携	今年度は小学校との接続が学校側の都合でできなかった。散歩等で地域の方と接する機会も多いので挨拶をしっかりと行い、地域に根ざした園を目指していく。
健康・安全への取組み	職員・園児の健康管理はできている。コロナ禍から感染症への意識が高くなってきている。防犯・防災対策も随時見直しを行い、園児の様々な行動に臨機応変に対応できるようにする。職員一人ひとりの意識を更に高め、有事に備えたい。
職務分担への取組み	職務分担に対して理解し、概ね各自取り組んでくれている。短時間の職員の理解度をあげるようにしていく。
リーダー職として（該当者のみ）	フロアリーダーを中心に、保育の役割分担はできている。リーダー職の資質向上のための方法を検討していく必要がある。リーダーによってはクラス担任で業務がいっぱいとなり、リーダー業務があまりできていない職員もあり、改善していく。
総評	育児休業職員が多く、職員全員が補って頑張ってくれたが、職員の段階的なスキルアップの必要性を今年度も感じた。働きやすい環境を整えると共に、職員配置や業務体制の見直しも検討していく。